

<ほうんネット全国集会in横浜6/17(日) ~”公立保育園民営化問題”保護者の運動交流~に参加して>

「ほうんネット」とは、「"公立保育園民営化問題"保護者の運動交流ネットワーク」の略称です。

午前中は、「公立保育園の民営化はなぜ問題なのか？～法律から見た問題点～」の講演会（田村和之氏：龍谷大学）が行われ、午後は、「民営化計画段階・選定会議段階・裁判になった場合・民営化後などの段階別の分科会」が行われました。全国からたくさんの保護者や保育関係者が参加され、各自治体保護者組織より現状報告がされたり、活発なやりとりが行われました。それらを通して、各地の公立保育園で起きている民営化の生々しい現状や問題点を学ぶことができましたので、以下にその概略や感想をご報告します。

1.民営化は決して他人事ではありません！

公立保育園の民営化は、ある自治体のみで行われていることではなく、国の構造改革による規制緩和の流れで、全国的に起きている重要な問題です。

児童福祉法や地方自治法の意義を蔑ろにした強引な民営化により各地で裁判も起きています！

2.民営化になったらどうなるの？

公立保育園が民営化された場合、ある日、保育者が全員入れ替わり、子ども－保護者－保育者の信頼関係が断たれてしまい、多くの子どもたちや保護者のみではなく保育者までもが大きな精神的なストレスにさらされる、との報告がされています。しかも「コスト削減」によって保育者の人件費が削減されます。民間保育所への補助金も削減されるため、ベテラン保育者を雇えず、派遣・パート・臨時の保育者に置き換えられます。民営化は子どもや保護者、保育者を犠牲にするだけでなく、受託法人にとってもたいへんなことなのです。

3.草加の公立保育園における「のびのび保育」を守っていくには？

とにかく、保護者－保育所職員－行政とが手をつなぎ、「すべての子どもの幸せ」を願って、ともに学び合い・話し合い・考え・より良い保育作りに取り組んでいくことが大切です。今の日本は、経済効率優先で格差社会や貧困の拡大が広がっています。保育の世界でも「人生のスタートから格差！保育の質もお金次第！」となってしまうことのないよう、皆で力を合わせて、子どもの権利最優先の保育の充実を目指していくことが大切だということ、改めて考えさせられた集会でした。



<第39回全国保育団体合同研究集会in愛知8/4(土)～6(月)に参加して>

1日目は全体会、2日目は分科会「保育施設での事故から考える」に参加しました。今回は、今皆さんに一番お伝えしなければならぬ！と感じた、全体会の基調報告から「我が国の現状をふまえた保育の情勢と運動の課題」について報告いたします。

* 第39回全国保育合研要綱を参考

岐路に立つ我が国の公的保育制度

1 今までの国の規制緩和政策により保育制度で「改革」されてきたこと

- (1) 保育所設置・運営への企業参入の容認
- (2) 待機児解消を名目にした定員の弾力化
- (3) 最低基準の切り下げ
 - ①給食室や園庭の必置規制緩和
 - ②各クラスの職員配置への非正規保育士（短時間勤務保育士を含む）の容認など

2 保育制度「改革」により国がやり遂げようとしていること

- (1) 「最小のコストで最大の受け入れ」「公から民へ」による待機児童対策
 - (2) 保育に直接入所方式など契約制度を導入し、
保育の公的責任を解体すること
 - (3) 公立保育所の民営化を促進し、企業が保育に参入する土俵をつくること
- *保育所の財源についても、三位一体改革で公立保育所の運営費と施設整備費を国庫負担金からはずし、一般財源化しました。規制緩和と公立保育所の民営化は、車の両輪となって公的保育制度を崩し、保育を市場化する役割を担っています。

このような「待機児解消」や「多様な保育要求への対応」などの保育問題、どう解決していくか？ その選択は私たち国民に問われています！

これらの保育問題の解決をめぐり、私たちはいま、次の二つの岐路に立たされています。未来を担う子どもたちのために、あなたなら、どちらの道を選択しますか？

格差社会や貧困の拡大…
少なすぎる子どもの予算…
最大の犠牲者は子どもです！

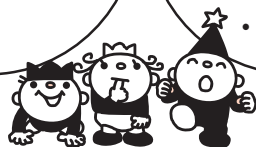
豊かなものが、一層豊かになる一方で、貧困が拡大していく格差社会がつくられようとしています。その最大の犠牲者は子どもなのです！OECD(経済協力開発機構)によると、今や「日本の子どもの貧困率は13.5%」と、加盟25カ国の平均より高い値を示しています。

① 憲法・児童福祉法に基づく公的保育制度による「権利としての保育」保障による道

② 契約制度を導入し、自己選択＝自己責任と受益者負担を原則とした保育の営利化・市場化へ

子育ては平和であってこそ！

憲法9条が改悪され、日本がもし戦争をする国になったとしたら…！戦地に送り込まれるのは、いま目の前にいる子どもたちです。子育て・保育の営みは、子どもの幸せをねがい、「人間らしい生き方が可能な平和な世界があつてこそ！」であることを決して忘れてはなりません。



公的保育の拡充は世界の流れ

保育の公的責任を後退させ、市場化する国は、日本とアメリカ、イギリスなどごく少数です。

父母連もこれらの情勢をふまえ、草加市独自の活動を展開していきましょう！
みなさんのご意見もお寄せください。

<http://www.soka-fuboren.org>